

子どもを共に育む
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、
行動の輪を広げましょう！

(平成21年度)

グッとときょうかん！

「子どもを共に育む京都市民憲章」エッセー

受賞作品

<市長賞>

「子どもにありがとう」 河嶋智子さん (京都市上京区)

<きょうかん賞> (氏名五十音順)

「おいしいの魔法」 安宅信代さん (京都市伏見区)

「見守り、見守られ・・・」 蔭山満子さん (京都市左京区)

「母へ」 北村可也子さん (京都市中京区)

「お父ちゃん、おかえり！」 内藤力夫さん (京都市中京区)

「生まれてきてくれてありがとう」 若林裕華子さん (京都市西京区)

市長賞

「子どもにありがとう」

河嶋 智子さん（京都市上京区）

お恥かしい話ですが私は子どもが小学生の頃、怒って家の外へ出したことがあります。何度言ってもきかないのでつい感情的になったのです。ピンポーンとすぐにチャイムが鳴りました。ドアを開けるとご近所のTさんが息子をきゅっと抱き寄せて立っておられました。

「坊やがどんな悪さをしたかわかりませんが今回は私に免じて勘弁してあげてください。」と言われました。「すみません。ごめんなさい。」私はTさんと息子に謝りました。子どもの言い分を十分に聞かずにとった行動を反省しました。

「おじちゃんに声かけてもらわなかったら僕はピンチやった。」と息子は言います。見て見ぬふりをせず助けてくださったTさんに息子も私も感謝しました。

学校でも地域でも子どもを見守る力と風土のある街です。地域の良さを子どもから、子どもの大切さを地域から教えられます。子どものお陰で気づく優しさが嬉しいです。

きょうかん賞

「おいしいの魔法」

安宅 信代さん（京都市伏見区）

“おいしい” その一言で何気ないおかすが、ワンランクアップした様な気分になるのはわたしだけでしょうか？

私は料理が苦手なため、今晚のメニューを考えるだけでも四苦八苦。

レパートリーが少ないのが、何よりも原因。

食事というものが日々の習慣だけの意味でしかなかった。

子どもの離乳食が始まり口にする度に、

「おいしいね、このおいも、おいしいね にんじん」と話しながら、食べていたのが、よかったのかもしれません。

今では「この味付けがいい」と具体的に言ってくれるので、“おいしい”の一言を聞くために、こんぶ かつお 煮干しでだしを作るところから始め、今ではパン ケーキも手作りできるまで、レパートリーが増えたのです まさに“食育”。

何かで読んだのですが、「いただきます」を声にだすだけで、噛む回数が増える。“おいしい”と感じるだけで栄養の吸収率が、高くなる様です。

添加物 化学調味料が、多いこの頃 食事の大切さを子供から学びました。“ひと手間”が何よりも代えがたい調味料かもしれません。

きょうかん賞

「見守り，見守られ・・・」

蔭山 満子さん（京都市左京区）

「あ，ラッキーや。」

「ラッキー，おはよう。」

今日も，小学生が口々に挨拶をしてくれる。

「はーい，オハヨウ。いってらっしゃーい。」

私は腹話術師のように，愛犬ラッキーに成り代わって，挨拶を返す。

小学生の登校時間に合わせて犬の散歩をする，私流の「見守り活動」を始め、もうすぐ丸3年になる。既に子育てを終え、夫と2人暮らしの私にとって、何にも増してすがすがしい朝のひとつときだ。子ども達が元気で、成長していく姿を毎日見ていると、本当に嬉しく、社会の宝だと感じる。長く続けていると、子ども達の顔と名前，誰と誰が兄弟で，仲良しグループか，最近見ないT君はインフルエンザらしい…など，だいたいの情報は把握できる。元気のない子どもには，特に注意して声をかけるようにしている。

「寒いなあ〜。」

「今日の服，かわいいなあ〜。」

…少しでも笑顔が返ってくると，ホッとする。

こう書くと，何か立派なことをしているかのようであるが，実は「見守り活動」で，一番救われたのは私自身かもしれない。この秋，それまで経験したことのない腰痛に見舞われ，2週間ほど外出ができないことがあった。もちろん，ラッキーも小屋に繋がれたままで，欲求不満。このとき，いつも下校時に，給食で残したパンなどを門の隙間からラッキーに食べさせてくれているMちゃん達が，インターホンを鳴らしてくれた。窮状を話すと，

「わかった！ほな，うちらがラッキーの散歩に行けばいいんやん！」

なんと，ラッキーの散歩役を買って出てくれたのである。

その日から毎日，彼女達は，便を拾うためのビニール袋まで持参して，土日も欠かさず散歩に行ってくれた。腰痛で弱気になる中，どれだけ有難かったことか…。本当に感謝している。

そのMちゃん達も，来年は4年生になる。「見守ること」は「見守られること」でもあると教えてくれた彼女達が卒業するまでは，少なくとも，この毎朝の活動を続けたいと思っている。

きょうかん賞

「母へ」

北村 可也子さん（京都市中京区）

昭和が平成に変わろうとした寒い冬の朝 私の母が他界した。

「お母さん・早く元気になって 皆の為に働きたい。」

そんなささやかな願いを残して…。

一人っ子で何もできなかった私。母が全てだった。

だからこそ母の人生分一生懸命生きる と誓った 16の春。

卒業文集には“自分が母になれた時 生き甲斐を感じるだろう”と書いた。

あれから21年。

重いカバンを背負い中学へ登校する姿をそっと見送り

空っぽのお弁当箱を洗い

山盛りの洗濯物を干し

恋の話に割り込んだり

頑固に汚れた靴をごしごし洗って

おひさまにお布団を干したりとか

きっと

そんなことを

母はもっともっと・もっとしたかったのだろうな。。

お母さん

あなたの命は今、孫へ繋がって生きていますから安心してね。

子供達 お婆ちゃんのような立派な母ではないけれど生まれてきてくれて本当にありがとう。

“いつまでも元気で皆の為に働く” ことが

三児のお母ちゃんになれた私の生き甲斐です。

きょうかん賞

「お父ちゃん、おかえり！」

内藤 力夫さん（京都市中京区）

三人の娘が、いつものように玄関で出迎えてくれる。仕事の疲れも、一瞬にして吹き飛んでしまう。

「今日、逆上がりができたよ！」

「竹馬に乗って、運動場をまわったよ！」

「ブランコ、すごく楽しかったよ！」

「次、私に言わせて！」「違う。私や！」

「お姉ちゃんばかりずるい。次は私の番や！」……。話が次から次へと飛んできて、着替えてゆっくりと落ちつく暇もない。

夕食をとり、三人娘を風呂に入れ終わると、もうクタクタである。寢床でも話とはどまらず、寝かしつけた頃には、妻も夢の中である。

朝早く出勤し、帰りも遅く、娘たちの寝顔を見るだけの日も多い私にとって、こんな掛けがえのない時間を大切にしたいと思っている。三人の元気な娘と、妻に感謝している。

「お父ちゃんは幸せです。本当に、ありがとう！」

きょうかん賞

「生まれてきてくれてありがとう」

若林 裕華子さん（京都市西京区）

「大切だから…！」

皆さん、子供を叱った後どうしていますか？私は夫と二人三脚で三人の子供を育てている中で、一つだけ続けている事があります。それは子供を叱った後、ぎゅっと抱きしめてから、「どうして怒ったかわかる？それはあなたにちゃんとした大人になって欲しいからよ。どうでもよかったら怒ったりしないよ。お母さんはね、これからもずーっと仲よくしていきたいと思っているの。だってせっかくお母さんの所に生まれてきてくれたんだもんね。」

すると子供は目にいっぱい涙をためて、「お母さん大好き。おりこうになるから、嫌いにならないで。」と言うのです。私はこのやりとりを雑にしないよう、心掛けています。

ただ叱るだけではない。大切だから、かけがえのない存在だから。少しでも色んな人に必要とされる、そんな大人になって欲しい。そう考えながら子育てをしている毎日です。

京都市では、「子どもを共に育む京都市民憲章普及促進協調期間」（平成21年10月31日～12月19日）における取組の一環として、市民との「共汗」で本憲章の実践を一層推進するため、「生まれてきてくれてありがとう」、「子育て中に感じた親としての喜び」、「自分が親になって分かった親への感謝」などをテーマに、「子ども（孫）」がいることで感じる親・祖父母としての喜びや子どもたちへ伝えたい思い等をエッセーとして募集しました。

応募いただいた64作品の中から、選考の結果、6作品を受賞作品に決定しました。

<参考>

1 募集概要

○募集内容：「生まれてきてくれてありがとう」、「子育て中に感じた親としての喜び」、「自分が親になって分かった親への感謝」などをテーマに、「子ども（孫）」がいることで感じる親・祖父母としての喜びや子どもたちへ伝えたい思い等をエッセーとして募集（概ね100～400字程度）。

○募集期間：平成21年10月31日（土）～12月21日（月）

○応募資格：京都市内に居住、在勤、在学又は活動されている方

2 応募数

総数：64作品 多数の御応募、ありがとうございました。

3 選考方法

「京都子どもネットワーク連絡会議」、「人づくり21世紀委員会」及び「子どもを共に育む京都市民憲章普及促進部会」の各代表者からなる選考委員によって選考。

子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆きずなを大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。



平成19年2月5日（育児ニコニコ笑顔の日）制定

3月13日 京都市会が憲章を積極的に推進する決議